

トピックス

近年気になる病害虫 ～虫害編～

県病害虫防除所は、発生予察情報を発表し、病害虫に対する注意喚起を行っている。2025 年、発生が早期化した斑点米カメムシ類や多発期間が長期化したヤガ類を主な対象に虫害の発表件数が過去最多となった。近年における春期と秋期の高い気温が、害虫の発生を助長したと考えられる。

内 容

県病害虫防除所では、圃場における巡回調査に加え、各種トラップ（図1）を用いたモニタリングにより、害虫の発生状況を把握している。被害の発生が懸念される場合には、病害虫発生予察情報（警報、注意報、防除情報など）を発表し、注意喚起を行っている。近年、害虫がこれまでにないほど多く発生する、あるいは、その状態が長期間続く事例により、2000～2018 年まで年間 0～4 件で推移していた発表数が 2019 年から増加傾向を示し、2025 年は過去最多を更新した（表1）。ここでは、発表の対象となった主な害虫について紹介する。



図1 モニタリングに用いるトラップ
左は予察灯、右はヤガ類用のフェロモントラップ

表1 2025 年度に発表した発生予察情報（虫害）

発表日	情報の種類	対象作物	対象害虫
2025 5/2	防除情報	果樹類	果樹カメムシ類
5/20	防除情報	野菜類、花き類	オオタバコガ
5/20	防除情報	アブラナ科野菜、花き類	コナガ
6/20	防除情報	野菜類、花き類	シロイチモジトウ
7/17	注意報	水稻	斑点米カメムシ類
7/24	注意報	アブラナ科の野菜類、花き類	ハイマダラノメイガ
7/30	防除情報	トマト、ミニトマト	トマトキバガ
8/7	注意報	野菜類、花き類、豆類	シロイチモジトウ
9/11	注意報	野菜類、花き類、豆類	ハスモンヨトウ
9/19	注意報	野菜類、花き類、豆類	シロイチモジトウ
10/17	注意報	野菜類、花き類	タバコガ類
11/7	防除情報	野菜類、花き類	チョウ目害虫
12/16	特殊報	果樹類、樹木類	チュウゴクアミガサハゴロモ
2026 3/5	防除情報	野菜類、花き類	ネギアザミウマ

水稻 ～斑点米カメムシ類～

これまで斑点米カメムシ類として警戒してきたアカスジカスミカメやクモヘリカメムシなどに加え、2020 年以降、ミナミアオカメムシやイネカメムシの発生が多くみられるようになった（図2）。2025 年、ミナミアオカメムシ・クモヘリカメムシ・イネカメムシの予察灯への誘虫時期が早まった（表2）。一因に、4 月、6～7 月の気温が高く（図3）、斑点米カメムシ類の活動時期が早まったことが考えられる。発生が早期化することで、加害や繁殖期間が長期化する、あるいは発生世代数が増えると予想され、これまで問題とならなかった品種における被害の発生が懸念されている。また、虫種の変化、とくにイネカメムシの多発に対しては出穂期の防除が必要になるなど、防除体系を再構築する必要がある。

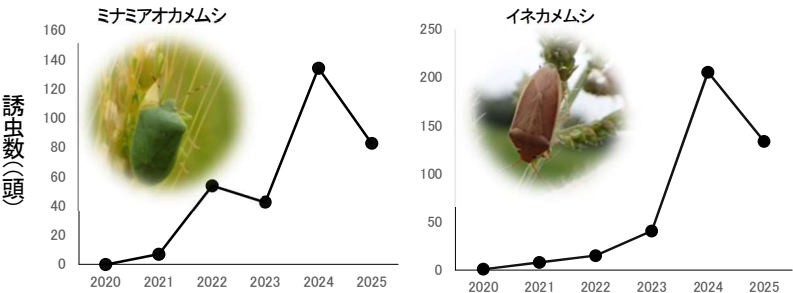


図2 ミナミアオカメムシ・イネカメムシの年次推移
6～8 月の合計誘虫数（加西市予察灯）

表2 予察灯による斑点米カメムシ類
の初発時期

虫種	過去5年平均	2025年
ミナミアオカメムシ	6月15日	6月8日
クモヘリカメムシ	7月12日	7月3日
イネカメムシ	7月11日	7月4日

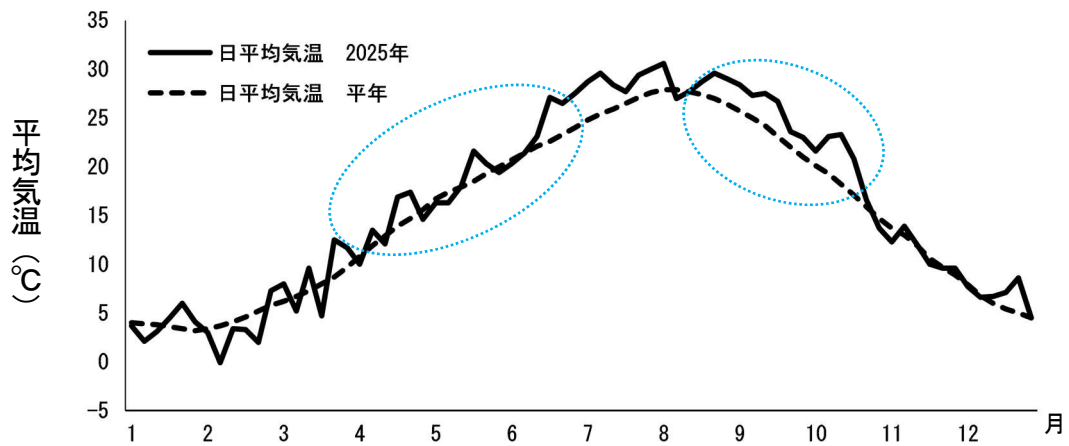


図3 2025年の気温推移（アメダス福岡）

秋冬野菜 ～ヤガ類～

キャベツやレタスなどに被害を及ぼすヤガ類（図4）は、例年、8月上旬～9月上旬に発生が増加し、その後、減少する。しかし、近年、ハスモンヨトウのフェロモントラップでの9～10月の誘虫数が多く（図5）、圃場での被害も10月になっても確認された。シロイチモジヨトウやオオタバコガにおいても同様の傾向がみられている（データ略）。秋期の高温（図3）によりヤガ類の発生が長期化したと考えられ、秋期まで防除を要した。



図4 ヤガ類の幼虫

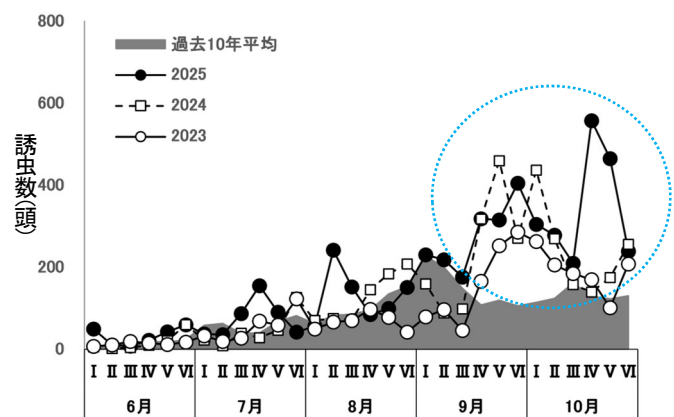


図5 ハスモンヨトウの発生推移
フェロモントラップの誘虫数（加西）
○ 例年では見られないピーク

今後の方針

今後も、気象要因の変化をふまえ、モニタリング調査の時期や頻度を検討するなど発生予察の精度を高めることに努める。また、調査結果をもとに害虫の発生に関する適期の情報提供を行い、被害防止につなげる。

柳澤 由加里（病害虫部）